



みどりっ子便り



豊かな体験活動



☆防災について考えよう「郡山市出前講座（防災）」4年

9月19日（火）、4年生は郡山市役所危機管理課から先生をお招きし、防災教室の出前授業を行いました。画像を見ながら、災害や防災について学んだ後、緑ヶ丘備蓄倉庫まで移動し、いろいろな防災対策品が保管されている様子を実際に見せていただきました。非常食や飲料水、ステッカーのお土産もいただきました。身の回りの防災について、体験を通して学ぶことができました。



☆ふくしまの未来を考えよう「福島県総合計画出前講座」5年

9月20日（水）、5年生が福島県庁復興・総合計画課から先生をお招きして、学級ごとに出前講座を行いました。震災と原発事故からの復興・再生、現在の課題等についての話や総合計画の説明をいただきました。SDGsの目標から、自分にできることを考えてワークシートにまとめる活動も行いました。福島県の課題や、未来について、真剣に考えることができました。



みどりっ子 学びの様子から～鉛筆の持ち方～

今回は、子どもたちの学びの様子から気付いたこと、「鉛筆の持ち方」についてつぶやかせていただきます。お子さんの鉛筆の持ち方は、いかがでしょうか。小さなことととらえがちですが、今後の学びに大きく影響するかもしれない大切なことなのです。具体的にどんな影響があるのか、調べてみました。鉛筆を正しく持つと「字形が整った美しい文字が書けるようになる、長時間書いても手が疲れにくくなる、指に負担がかからないので手、腕、肩、首、目が疲れにくくなる、姿勢がよくなる、学習に集中しやすくなる、学習意欲が出て学力が向上する等のよい効果があるといわれています。（出典：鉛筆の持ち方の影響～正しく持つメリットと教え方・矯正のコツ 立石美津子氏より）

子どもたちの学びの様子を見ていると、正しく鉛筆を持つことが、正しい姿勢と美しい文字につながると感じています。持ち方が悪いと、手が痛くなったり、手元が見えづらくなって姿勢が崩れたりしてしまいます。姿勢が悪いと、体の痛みや視力の低下、背骨のゆがみなどにつながることもあります。たかが鉛筆、されど鉛筆。私たちも学校で呼びかけますが、ぜひご家庭でもお子さんが正しく鉛筆を持てるよう声をかけていただきたいと思います。

→ちなみに「正しい持ち方」の定義とは？「5本の指の関節（15箇所）と、手首の関節を自由に屈伸、屈折することができ、手と腕に余計な力が動くことなく、筆記具を自在に動かしてあらゆる基本線を思うように書ける持ち方」と定義されています。（出典：トンボ鉛筆HP）

